

2024(令和6)年度 仏教壮年会連盟 活動方針・事業計画

仏教壮年会連盟 綱領

われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、
ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現を
めざします。

1. スローガン

ともに聞き まことのよろこびを伝えよう

2. 活動方針

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についてのご消息及びご親教「念仏者の生き方」「私たちのちかい」の意を体し、「仏教壮年会連盟綱領」の精神に則り、積極的な活動を展開する中で社会の諸問題に関心を持ち、念仏者としての行動を起こし、全寺院において仏教壮年の活動を実践する。

3. 重点目標

- (1) 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)に積極的に取り組む。
- (2) 既存の寺院仏壯の活性化に積極的に取り組む。
- (3) 「組連盟」全組結成をめざし、「寺院仏壯」50%以上をめざす。
- (4) 子ども・若者へのご縁づくりや、各教化団体との積極的な交流をはかる。
- (5) 災害に対する意識啓発を行い、被災地・被災者への継続的支援活動を実施する。

4. 事業計画

I. 各種委員会所掌事項

(1) 組織拡充委員会

- ① 教区(特区)連盟開催の研修会を助成する
- ② 寺院仏壯・組連盟結成を奨励し、組織拡充につとめる
- ③ 次世代の仏壯活動参画へのはたらきかけ
- ④ 退会・休会単位会への復帰の支援や活動に悩む単位会への支援
- ⑤ 寺院・組・教区他団体との交流及び連携について
- ⑥ 現事業の見直しと新規事業の企画について

(2) 研修委員会

- ① 中央研修会を開催し、仏教壮年会活動を推進する人の育成をめざす
- ② 連盟主催の新規研修会について検討する

(3) 広報委員会

- ① 機関誌「朋友」を発刊する
- ② 教区(特区)連盟、組連盟及び寺院仏壯で活用できる情報発信する
- ③ ホームページを活用する

(4) 教材委員会

- ① 新規教材に関すること
- ② 教材の普及促進について

II. 連盟、教区(特区)連盟及び組連盟として推進する事項

- (1) 連盟、教区(特区)連盟及び組連盟並びに寺院仏壮間の連絡を密に行い、連盟事業が円滑に行われるよう、連区連絡協議会の充実をはかる。
- (2) 災害への具体的対策を話し合うなど意識啓発を行い、被災地への復興活動に継続的に取り組む。
- (3) 子ども・若者へのご縁づくりに積極的に参画するとともに、仏教婦人会をはじめ諸団体との連携した活動にも取り組む。
- (4) 『朋友—浄土真宗入門のてびき—改訂版』、『本願寺新報』、『大乘』及び『季刊せいてん』の購読促進と普及・活用に取り組む。
- (5) 寺院仏壮結成に向けて、研修会が教区(特区)及び組において開催されるよう取り組む。
- (6) ダーナ活動に積極的に取り組む。
- (7) ビハーラ活動に積極的に取り組む。
- (8) 「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」への参拝を奨励する。
- (9) 慶弔規程についての周知をはかるとともに活用をすすめる。
- (10) 貧困の克服に向けて取り組む。
- (11) その他必要なこと。

III. 会員の生活実践を通して推進すること

- (1) 帰敬式を受式し、門徒としての自覚を持つ。
- (2) 「浄土真宗の教章(私の歩む道)」のお心を味わい、お念仏の生活を送る。
- (3) 新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)の学びを深める。
- (4) 次世代への伝承につとめる。
 - ① 家族とともに仏さまにお参りをする。
 - ② 法要行事に家族そろって参加する。
 - ③ 実家を離れた子や孫に、ご本尊「いちょう」「きく」「携行本尊」等を贈り、信仰生活の環境作りを支援する。
 - ④ 「食事の言葉」の周知に取り組む。
- (5) 寺院での初参式・成人式・仏前結婚式等の行事を奨励する。

5. 連盟における行事計画【予定】※会議はすべてオンライン併催

- (1) 評議員会 2025(令和7)年1月下旬から2月上旬
- (2) 理事会 2024(令和6)年6月29日(土)(各種委員会に併催)
12月14日(土)~15日(日)、その他オンライン開催
- (3) 各種委員会 (1)2024(令和6)年6月30日(日)(各委員会同日開催)
(2)第1回評議員会の翌日
(3)その他、オンライン開催
- (4) 講師会 未定
- (5) 中央研修会 2025(令和7)年2月15日(土)~16日(日)(集合開催)

以 上